

碧生 どうかな。さっき他の本も読んでみたけど、何も起こらなかったよ。

日向 信用できないな。(本を見ながら) いきなり犯人に撃たれたりしないよな？

碧生 もしさっきみたいになっても大丈夫だよ、僕内容知ってるし。それに、シヤロック・ホームズの世界に入れるなんて最高じゃない。

日向 お前、まさかこの状況楽しんでないだろうな？

碧生 いいから読んでみなって。

日向、『赤毛組合』の掲載されたページを開く。

そこには先ほどと同じようなメモが挟んである。

日向 あれ、またメモだ。「ホームズ、ワトスン、コンビ。危機を乗り越える、ホームズとワトスンの友情」。

どこからともなくロンドンの喧騒と馬車の音が聞こえてくる。

日向 なんか聞こえる……。

碧生 これってもしかして……。

まばゆい光が二人を包む。

日向、碧生、悲鳴を上げ、姿を消す。

場面は民宿すわの大広間へ。

芙美、剛蔵、座っている。

能神久(以下久)、堂々とした様子で立っている。

川井奈央(以下奈央)、その近くに控える形で座っている。

久 ついに、恐れていたことが起こりましたね……。

短い沈黙。

芙美 ……恐れてたの？

久 ええ、恐れていました。いつかこんなことが起こるんじゃないかと。

剛蔵 いつかこんなことが起こるって思ってたのか？

久 ええ、思っていました。いつかこんなことが起こるんじゃないかと。

芙美 それってつまり、うちの日向がいきなりいなくなつて、丸一日経っても帰って来

ないっていう、そういう事態を……

久 具体的に言えばそういうことです。

剛蔵 予測してたってことか？

久 僕が一体何年この村の神隠し伝説を研究してると思ってるんですか。

芙美 まあ、専門家ですもんね。

奈央 確かに先生は恐れてらっしゃいました。いつかこんなことが起こるのではないかと。

芙美 そうなのね。

奈央 研究室でも毎日、「神隠し起こんねえかな、誰でもいいからいなくなんねえかな」と呟いてらっしゃいました。

芙美 待ち望んでるじゃない！

久 川井君！ シッ！

剛蔵 縁起でもねえぞお前！

久 誤解です！ 待ち望んでいたなんてそんな！ 単純に、サンプルが多ければ多いほど研究が進むなあと思っていただけです！

剛蔵 待ち望んでるじゃねえか！

久 だって仕方ないじゃないですか！ 平成に入って神隠しもめっきり減って、令和にいたってはまだ一回も起こってなかったんですよ！？ 僕がどれだけ神隠しを心待ちにしていたか！

剛蔵 知るか！

久 当然、日向君の一件はきちんと調査します。福名大学人文学部民俗学コース史上最年少准教授の私、能神久が彼をまるっと見事に探し出して見せます。

奈央 わたくし、川井奈央も助手として微力ながらお力添えいたします。

芙美 お願いますよほんと。

久 しかし研究者としての血も同時に騒いでしまうのはいたしかたないこと、今回の事例もきっちりサンプルに加えさせていただきますことはどうかご容赦ください。

剛蔵 腹立つなあこいつ……。

奈央 ちなみに警察には届けてらっしゃいます？

芙美 うん、一応。捜索願は出しちゃいるけど、まだ一日しか経ってないし、ただの家の可能性もあるからって、あんまり一生懸命に探してくれてはいないというか……。

久 まあ警察の初期対応なんてそんなもんでしょね。

奈央 心当たりの場所がありますか？

芙美 クラスの仲良さそうな子たちには連絡したんだけどね。バスケット部の子とか。でもどこにもいなくて。

剛蔵 あいつ、友達が多いんだけどなあ。こういう時に頼らなそうなんだよな。迷惑かけるとか思ってる。

奈央 どこかに身を寄せているわけではなさそうってことですな。

芙美 だから即神隠しってわけじゃないけど、お兄ちゃんの前例もあるし……。

剛蔵 俺が神隠しに遭ったのもあいつと同じ年くらいの時だったからなあ。

奈央

可能性はゼロではないと。

久

とにかくこの一件で、神隠しに遭いやすい血筋があるという僕の仮説が証明されたと言っても過言じゃありませんね。

剛蔵

血筋なのかなあ。

久

芙美さんと剛蔵さんのひいひいおばあさん、そしてひいおじいさん、さらに剛蔵さん、そして今回の日向君。記録に残っているだけで須和家の人間が四人も神隠しに遭ってるわけですから。

芙美

神隠しに遭いやすい血筋ってなんなの？　って感じだけど。

久

この八佐間村は古来、神隠しに遭う少年少女が異様に多い村ではありますが、それでもこの数には特筆すべきものがあります。

剛蔵

そんで、どこから手えつけんだ？

奈央

過去の神隠しから類似の事例をピックアップしますか？

久

いや、それよりも剛蔵さんが神隠しに遭った当時のことを調べる方が手っ取り早い。

剛蔵

んなこと言ってもよ、俺は神隠しに遭ってた間のことは全然覚えてねえからな。ちゃんと思ひ出そうとしたことがないからじゃないですか？　大体、今まで一度だって剛蔵さんから当時のお話をちゃんと聞けたためしがないわけですから。

久

そうだったんですか？

奈央

そうなのよ、結局いつも酒盛りになっちゃって。

芙美

なんだかんだで調査はしてるのかと。

奈央

面目ない。

剛蔵

毎年来るのはそっちが目的なのかと思ってたわ。

久

断じて違います。今から三十五年前、つまり剛蔵さんが十六歳の時に神隠しに遭い、無事に戻って来たというその事実、何かヒントがあるはずなんです。

剛蔵

かわいいい甥っ子のためにひと肌脱ぐか。

芙美

早速始めます？

久

いや、その前に民宿すわの名物、源泉かけ流しの湯を堪能させていただきましよう。光晴さんにもお線香を上げさせてください。

芙美

ええ、どうぞどうぞ。その後に調査を？

久

いや、その後に腹ごしらえですね。

奈央

私、馬刺し食べるのすごく楽しみ。

芙美

本当に調査してくれます？

久、奈央、剛蔵、芙美、大広間の奥へ去る。

場面は転換して一八九〇年のロンドン。

碧生、鹿撃ち帽をかぶり、ステッキを持って登場。

その後ろからボーラーハットを被った日向が登場。